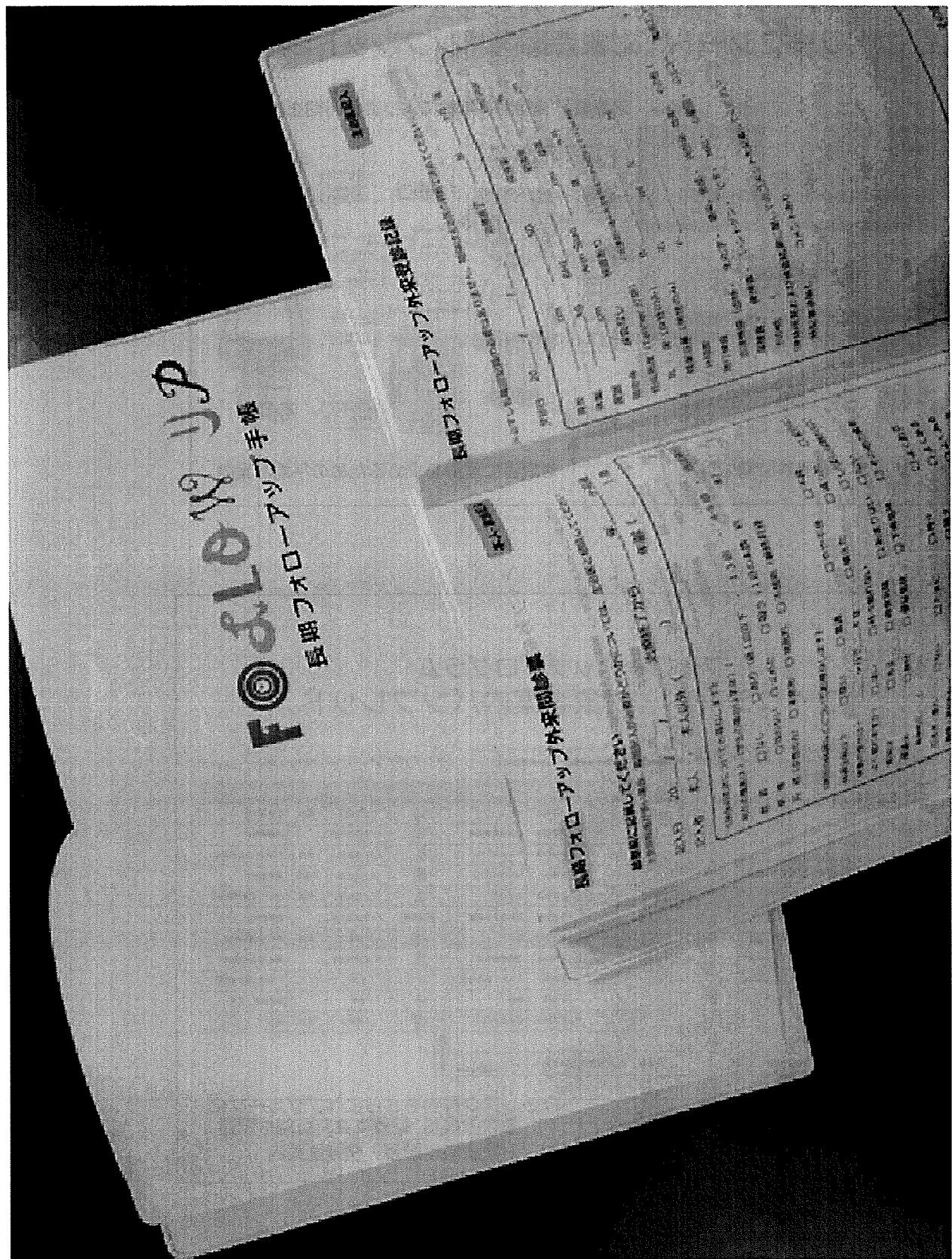


### 参考資料3 JPLSGによるフォローアップレベル試案

レベル	分類	対象者	ケアプロバイダー	コンタクト頻度	評価内容
1	一般的健康管理群	外科手術のみ (頭頸部、胸腹部、四肢)	健康診断医または家庭医	1／年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般診察</li> <li>・一侧臓器摘出の場合は、当該臓器の機能評価を行う。</li> <li>・成人期以後は、電話／郵送による予後調査を行う。</li> </ul>
2	経過観察群	低リスクの化学療法を受けた患者 (Doxorubicin 250mg/m <sup>2</sup> 未満、かつ Cyclophosphamide 5g/m <sup>2</sup> 未満、かつ Cisplatin 300mg/m <sup>2</sup> 未満、かつ Ifosfamide 45g/m <sup>2</sup> 未満、かつ Dexamethasone 使用歴なし)	家庭医または長期フォローアップ外来	1／年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般診察</li> <li>・治療関連晚期合併症が疑われる場合は、必要な専門検査を行う。</li> <li>・成人期以後は、電話／郵送による予後調査を行う。</li> </ul>
3	標準的フォローアップ群	高リスクの化学療法を受けた患者 (Doxorubicin 250mg/m <sup>2</sup> 以上、 Cyclophosphamide 5g/m <sup>2</sup> 以上、 Cisplatin 300mg/m <sup>2</sup> 以上、または Ifosfamide 45g/m <sup>2</sup> 以上、 Dexamethasone 使用歴) 18Gy未満頭蓋放射線照射患者 頭蓋以外の放射線照射患者	長期フォローアップ外来	1／年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般診察</li> <li>・治療関連晚期合併症に対する専門検査を行う。</li> <li>・成人期以後も、フォローを行うことが望ましい。</li> <li>・成人期以後にフォロー中止する場合は、電話／郵送に予後調査を行い、必要に応じ、専門検査を行う。</li> </ul>
4	強化フォローアップ群	18Gy以上頭蓋放射線照射患者 同種造血細胞移植を受けた患者 再発治療を受けた患者 遺伝性腫瘍症候群のある患者 脳腫瘍患者 自家血液細胞移植併用大量化学療法を受けた患者	長期フォローアップ外来	1／年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般診察</li> <li>・治療関連晚期合併症に対する専門検査を行う。</li> <li>・成年期以降もフォローが必要。</li> </ul>
5	要介入群	臓器機能障害による社会参加不能患者 臓器機能低下に伴う要生活制限患者 晚期合併症の症状のある患者 晚期合併症に対して治療が必要な患者	長期フォローアップ外来	1／3-6ヶ月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般診察</li> <li>・治療関連晚期合併症に対する専門検査および治療を行う。</li> <li>・成年期以降もフォローが必要。</li> </ul>

## 参考資料4 JPLSG 治療サマリー

参考資料5 JPLSG フォローアップ手帳



参考資料 6 国立成育医療センターにおけるフォローアッププログラム

### フォローアッププログラム ワークシート・対象者案内パンフレット

← 治療終了後期間と年齢により評価時期を設定

**A**

年齢に応じて、 治療終了後之年齢まで基本年にごとに評価。	
評価時	6ヶ月後
1年後	1年半後
2年後	

**B**

決まった年齢に評価	
-3歳	-6歳
-小学校1年	-小学校4年
-中学校1年	-高校1年
-高2以上	

**A**

評価時	6ヶ月後	1年後	1年半後	2年後
成り方月	成り方月	成り方月	成り方月	成り方月

**B**

評価時	小学校1年	小学校4年	中学校1年	高校1年	高2以上
成り方月	成り方月	成り方月	成り方月	成り方月	成り方月

成人までの受診時期を提示 ↑      ↑ 対象者に理解を求めるための平易な案内

### フォローアッププログラム ワークシート・対象者案内パンフレット

→ 評価時期別プログラム (リスク群別の方)

**基本/リスク別プログラム**  
**リスク群の表示**  
**評価時期別ワークシート**

評価時	検査項目	必検項目(全員)	検査室	部位	検査室	部位	検査室	部位	検査室
測定	身長・体重	○	2F計						
	体温・心拍数・呼吸数・血圧	○	2F計						
血液検査	血算・生化学	○	採血						
	免疫検査	○	採血						
尿検査	尿一般・尿細胞検査	○	1F検査室						
	尿潜血	○	1F検査室						
糞便検査	糞便潜血検査	○	3F生理検査室						
	糞便検査	○	3F生理検査室						
レントゲン	胸部単純レントゲン	○	1F 放射線						
	心電図	○	3F 生理検査室						
眼科受診	眼科	○	病棟/外来						
	眼科	○	病棟/外来						

リスク群内もさらにサブグループ化  
複数診療科、職種で共有可能な記述  
対象者向け診察・検査室案内

参考資料7 小児がん全数把握登録の登録画面

E-DMS WEB SYSTEM Ver.1.3

【成績者ID】 AAA-000 パスワード変更  
前回のログイン: 2009/12/10 17:39:21

小児がん全数把握登録 固形腫瘍  
小児がん全数把握登録 血液腫瘍

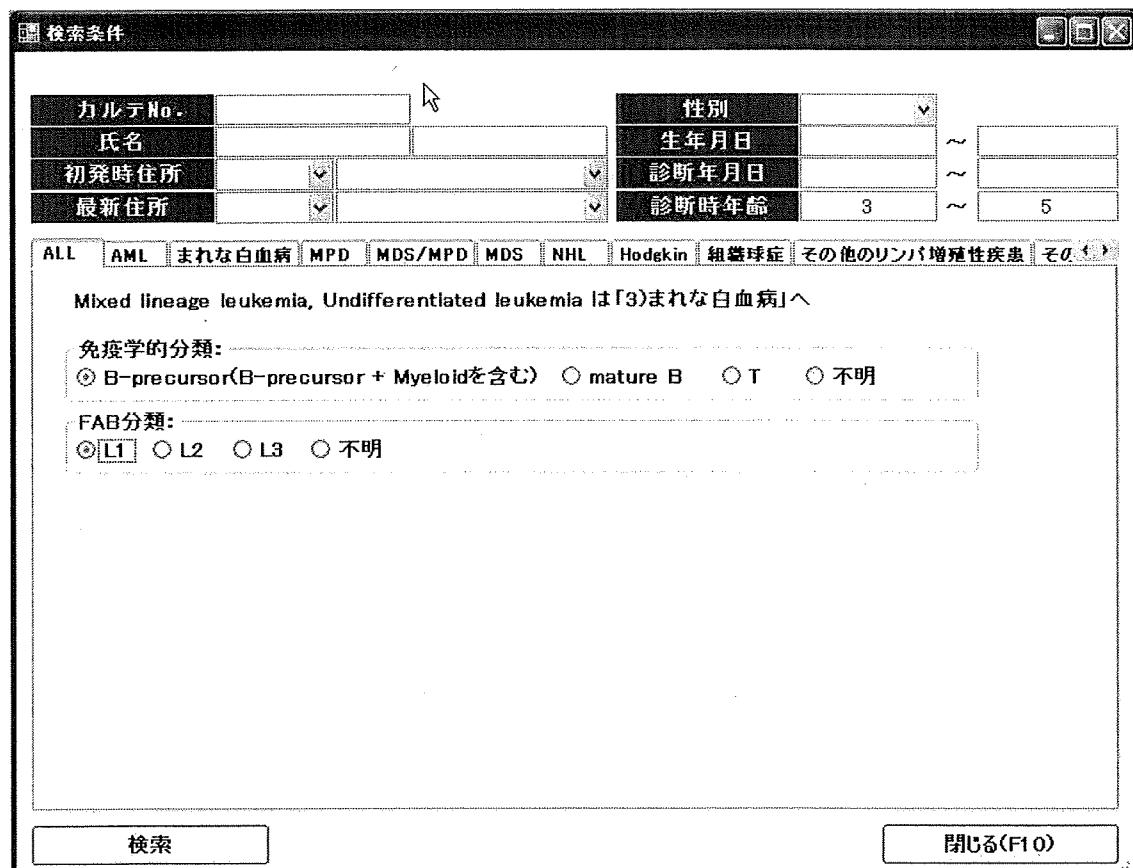
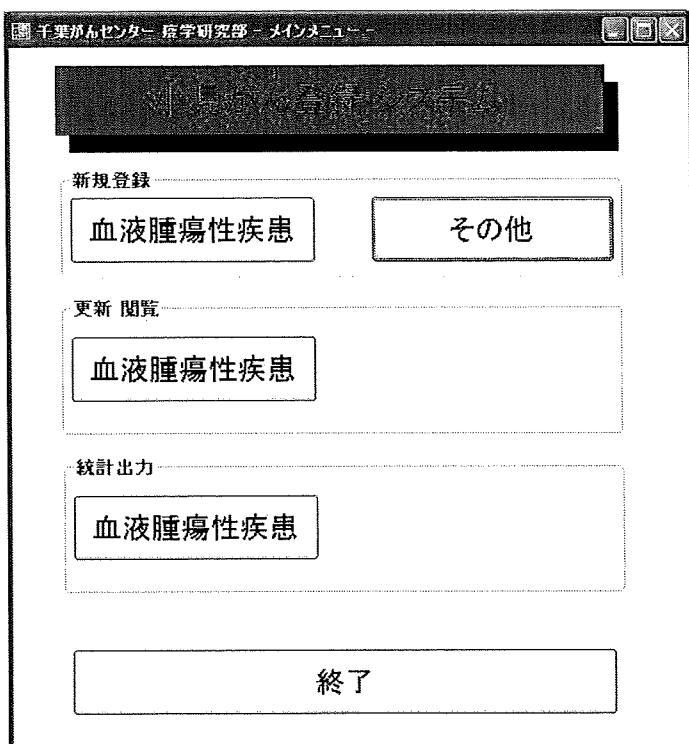
【お願い】  
※専門性別記入欄 組織球瘤は、「小児がん全数把握登録 血液腫瘍」から登録をお願い致します。

Copyright © 2009 EPI Co., Ltd. All rights reserved.  
TEL: 03-5523-8716 FAX: 03-5523-8716  
Address: 1-23, Shinonome-nishicho, Minato-ku, Tokyo, Japan

終了

①) 医療機関情報				
登録年月日	2009/1/30			
施設名	森のくまさんびょうりん 小兒外科			
登録責任者名	AUEO	記載医師名		
②) 患児情報				
名前の頭文字	カタカナで姓名の名の頭文字を入力してください	性別	<input checked="" type="radio"/> 男 <input type="radio"/> 女	
初診時住所	都道府県	初診時住所	市区町村	
生年月日	年	月	日	<input type="checkbox"/> 日付入力不可 日付が入力ができない場合は、日付入力不可をチェックしてください。(1日で固定されます。)
診断年月日	診断年	月	日	
前医の有無	<input checked="" type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり → 施設名			
基礎疾患	<input checked="" type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり → ( Down症候群 Fanoan症候群 Noonan症候群 Li-Fraumeni症候群 Beckwith-Wiedemann症候群 Neurofibromatosis type I Von Hippel-Lindau病 結節性硬化症 その他 )			
発病形式	<input checked="" type="radio"/> 一次性 <input type="radio"/> 二次性 (二度がん、治療間連がんを含む。) → 一次癌患者			
多癡がん	<input checked="" type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり → ( 既往歴と同一の部位に癌を複数あります。(1種類・多癡) )			
小児腫瘍特定疾患登録	<input checked="" type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり (子守を含む) <input type="radio"/> 不明			
③) 診断病名(病名を選択して下さい。未記載病名や未確定の場合は「その他」で疾患名をご記入ください。)				
診断病名	<input checked="" type="radio"/> 神經芽腫群腫瘍 <input type="radio"/> 横腹芽腫 <input type="radio"/> 背胞腫瘍 <input type="radio"/> 肝腫瘍 <input type="radio"/> 骨腫瘍 <input type="radio"/> 軟部腫瘍 <input type="radio"/> 肺胞癌腫瘍(肺胞癌を除く) <input type="radio"/> 胸・骨骼腫瘍 <input type="radio"/> その他			
		登録	戻る	

## 参考資料8 千葉県地域がん登録における小児がん登録用追加プログラム



## 参考資料9 広報ならびに啓発活動一覧

### 【平成19年度】

- ① 第41回日本小児内分泌学会学術集会・シンポジウム「CCSの内分泌障害をめぐって」(平成19年11月9日、横浜)  
藤本純一郎：全国のフォローアップシステムの確立とがん登録  
石田也寸志：JPLSG委員会での長期フォローアップへの取り組み  
横谷 進：小児内分泌の臨床からみた CCS
- ② 第23回日本小児がん学会・第49回日本小児血液学会・学術集会・シンポジウム3「小児がん経験者の長期フォローアップシステムの構築」(平成19年12月15日、仙台)  
石田也寸志：イントロダクション  
藤本純一郎：長期フォローセンターと拠点病院構想
- ③ 第23回日本小児がん学会・第49回日本小児血液学会・学術集会・特別講演(平成19年12月15日、仙台)  
池田 均：小児がん登録の現状と展望
- ④ 第35回日本小児神経外科学会 教育講演(2007年6月2日 木更津市)  
横谷進：小児脳腫瘍に伴う内分泌障害の診断と治療
- ⑤ 第52回東海小児がん研究会(2007年8月25日 名古屋市)  
横谷進：CCS(Childhood Cancer Survivors)における内分泌障害-早期診断と治療
- ⑥ 第18回 臨床内分泌代謝 Update 教育講演(2008年3月15日 高知市)  
横谷進：臨床医に必要なCCSの知識
- ⑦ 厚生労働科学研究費補助金推進事業(がん臨床研究事業)・研究成果発表会「小児がんと闘うこどもたちのためにー日本の小児がん医療のこれから」平成20年2月23日、埼玉  
藤本純一郎：小児がん臨床研究推進の基盤整備

### 【平成20年度】

- ① 第111回日本小児科学会学術集会平成20年4月25日  
分野別シンポジウム4 小児がん経験者をめぐる問題と長期フォローアップシステムの整備  
座長：藤本純一郎、前田美穂  
藤本純一郎：イントロダクション  
前田美穂：小児がん経験者の身体的晚期合併症：低身長に関する考察  
石田也寸志：今後の長期フォローアップ体制の構築
- ② 財団法人がんの子どもを守る会 平成20年度定期総会講演 平成20年6月22日  
横谷 進：がんの子どもの内分泌晚期合併症について
- ③ 国立がんセンターがん対策情報センター主催第1回市民向けがん情報講演会「がんの子どもを社会で支えよう」平成20年7月12日  
石田也寸志：小児がん治療の進歩—いま、そしてこれから  
藤本純一郎：がんの子どもを見守るしくみ
- ④ 日本サイコオンコロジー学会 平成20年10月10日

- パネルディスカッション：小児がんにおけるサイコオンコロジー：患者のこころを見つめて  
 石田也寸志：小児がん治療後の心理社会的問題（長期フォローアップでの重要性）
- ⑤ 小児脳腫瘍の会主催 シンポジウム：「守る」小児脳腫瘍と闘う患児を守る 平成 20 年 11 月 3 日  
 石田也寸志：リスクに応じた晚期合併症対応の必要性  
 横谷 進：下垂体機能障害への早期診断と治療  
 藤本純一郎：望まれる長期フォローアップシステムとは
- ⑥ CCS Workshop in HOKKAIDO 特別講演 平成 20 年 11 月 29 日  
 横谷 進：CCS の内分泌合併症に対するケア
- ⑦ 日本脳腫瘍学会特別講演 平成 20 年 12 月 2 日  
 石田也寸志：小児脳腫瘍の晚期合併症と QOL—脳外科医と小児科医の協力の必要性—
- ⑧ 平成 20 年度厚生労働科学研究「がん臨床研究事業」一般向け研究成果発表会 平成 21 年 2 月 21 日  
 「小児がんと闘う子どもたちのために—日本の小児がん医療のこれから—」  
 藤本純一郎：子どもたちの健やかな成長を願って：フォローアップ体制の整備

### 【平成 21 年度】

- ① 第 112 回日本小児科学会学術集会 分野別シンポジウム 5「小児がん全数登録と長期フォローアップ」2009 年 4 月 17 日（金）～19 日  
 藤本 純一郎：小児がん治療患者の晚期合併症と長期フォローアップ体制の整備
- ② 日本小児がん学会 2009 年 11 月 27・29 日  
 1) 小児がんワークショップ「小児がん登録」（座長：藤本純一郎）  
 藤本純一郎：イントロダクション  
 堀部敬三：小児がん全数把握登録  
 坂本なほ子：小児がん登録見聞録  
 2) QOL シンポジウム 小児がん経験者の成人医療への移行について（座長：石田也寸志）  
 石田也寸志：イントロダクション 今回の企画について  
 前田美穂：小児がん経験者の長期フォローアップガイドライン
- ③ 放医研シンポジウム招待講演 2009 年 12 月 15・17 日 放射線医学総合研究所大議室  
 KIDS workshop 2009 in NIRS (IAEA-NIRS ジョイントワークショップ NIRS 放射線防護研究センター  
 シンポジウム WHO グローバルイニシアティブワークショップ)  
 放医研・放射線防護研究センターシンポジウム：子どもの放射線防護  
 藤本純一郎：小児がん経験者の長期フォローアップ体制整備  
 石田也寸志：小児がん生存者の長期健康影響
- ④ 勇気の会（小児がん親の会）主催講演会：小児がん医療の動向と今後の課題、構想。2009 年 5 月 24 日 国立成育医療センター研究所  
 藤本純一郎：国立成育医療センターの取り組み
- ⑤ 2009 年 NPO ファミリーハウス総会・講演会 2009 年 5 月 23 日  
 石田也寸志：小児がんの子どもたちの治療と退院後の生活について—小児病棟で子どもたちはどのように闘病し、退院後どういう問題を抱えるか—
- ⑥ MN(みんななかま)プロジェクト マロンの会講演 2009 年 9 月 5 日  
 石田也寸志：小児がん経験者の支援—現状と課題—

- ⑦ 石田也寸志 : SIOP2009 10月5日-12日 ブラジルサンパウロ 口演発表2題、ポスター発表1題  
“Late Effects And Health-Related Quality Of Life Of Childhood Cancer Survivors After Stem Cell Transplantation”  
“Posttraumatic Growth Among Survivors Of Childhood Cancer”  
“A Comprehensive Support For Families Having Children With Cancer”
- ⑨ 日本プライマリ・ケア学会ワークショップ 2009年8月23日  
石田也寸志 : 小児科医とプライマリ・ケア医のよりよい連携を目指して・成人した小児がん経験者が必要とするプライマリ・ケア・において、「小児がん治療の進歩ーこれからの大変な問題ー」
- ⑩ 静岡造血細胞移植研究会 平成21年5月16日  
石田也寸志 : 造血幹細胞移植後の晚期合併症とQOL
- ⑪ NPOファミリーハウス総会・講演会 2009年5月23日  
石田也寸志 : 小児がんの子どもたちの治療と退院後の生活についてー小児病棟で子どもたちはどのように闘病し、退院後どういう問題を抱えるかー
- ⑫ がんの子どもを守る会定例総会 2009年6月14日  
石田也寸志 : 小児がん経験者の長期フォローアップ
- ⑬ 第21回千葉小児成長障害研究会 2009年5月9日  
横谷進 : 小児がん経験者における晚期内分泌合併症
- ⑭ 第3回国際脳腫瘍学会公開講座 2009年5月12日  
横谷進 : Late Endocrine Effects in Childhood Brain Tumors



## 第3回 小男が入学 説始



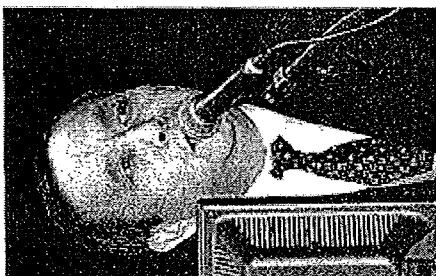
九学会報告  
第三回日本小児がん研究会  
会期：15、16の両日、仙台市で開かれた。「ニータルナフの研究と懸念の一部」と題して講演がなされ、また、小児がんの問題をめぐる討論がなされた。この会議は、日本小児がん研究会の主催によるものである。

(三國志 卷四)

## 講演 長期フォローセンターと 拠点病院構想

明新目錄

藤本純一郎さん(56)  
国立成育医療センター  
研究所副所長



小児がん経験者が  
長期オロロアップ外来に求めることが

「かどり牛舎市」の開拓者たる外國人を主として、日本は全國に分布してゐる。コチエイネーは、一ターキーなどの人種群は、何處から來て支出來しよ、と考へて、小原が大正四年（1915年）に於て、西洋の研究者たる方所で頭に附着するものの中から、最も多く見出された。そこで、さらに詳細に検討して、それを解説した。最後に、その結果を総括して、その生物学的意義を述べた。

かくの子供を守る企  
ソーシャルワーク

## 社会復帰どう手助け



いのちの跡をかずる  
一千じゆに死を教える人間

## 特別講演

125

## 正直に答える大切さ

第一回 一朝夢幻入神宮  
金闕珠宮見玉帝  
九天玄女授金經  
太上老君傳火鑰

10

卷之三

東北大學生院 日本医科大学附属病院	仙台市 東京都文京区
東北大學生院 日本医科大学附属病院	東京都中央区
東北大學生院 日本医科大学附属病院	調布市 名古屋市
東北大學生院 日本医科大学附属病院	江戸川区 羽田市
東北大學生院 日本医科大学附属病院	新潟市 和歌市
東北大學生院 日本医科大学附属病院	三鷹市 川崎市
東北大學生院 日本医科大学附属病院	横浜市 大塚市
東北大學生院 日本医科大学附属病院	横浜市 大塚市
東北大學生院 日本医科大学附属病院	久留米市 太田市
東北大學生院 日本医科大学附属病院	東京都世田谷区 東京都板橋区
東北大學生院 日本医科大学附属病院	立川市 正鶴市

● 刘国·李锐共《X-2》jryd@sohu.com

小説文化と長期フォローアップ

當初在新竹市的中華路  
19號外牆上寫著「中華公司  
W」石碑等。因爲我出生那一年  
是西元1919年，當時這家  
公司已經有二十多年歷史了。  
這家公司的總經理是王文輝，  
他的父親王國慶是新竹人。

「一風堂先生は、大いに才人

アリーベーの日本、ソ連の影響で、  
ソ連に近づいて、一方で米国との  
回復するまでの間に、農業政策が  
問題は引き続き多くなる。  
而して問題は、主に以下の二点  
である。一つは、農地の分配問題、  
二つ目は、農業生産の問題である。

清華

成長に合わせた支援必要

の事実をもつて、日本は「アーバン化」の進展を示す。しかし、このアーバン化は、必ずしも「都市化」であるとは限らない。つまり、アーバン化は、必ずしも「都市化」であるとは限らない。つまり、アーバン化は、必ずしも「都市化」であるとは限らない。

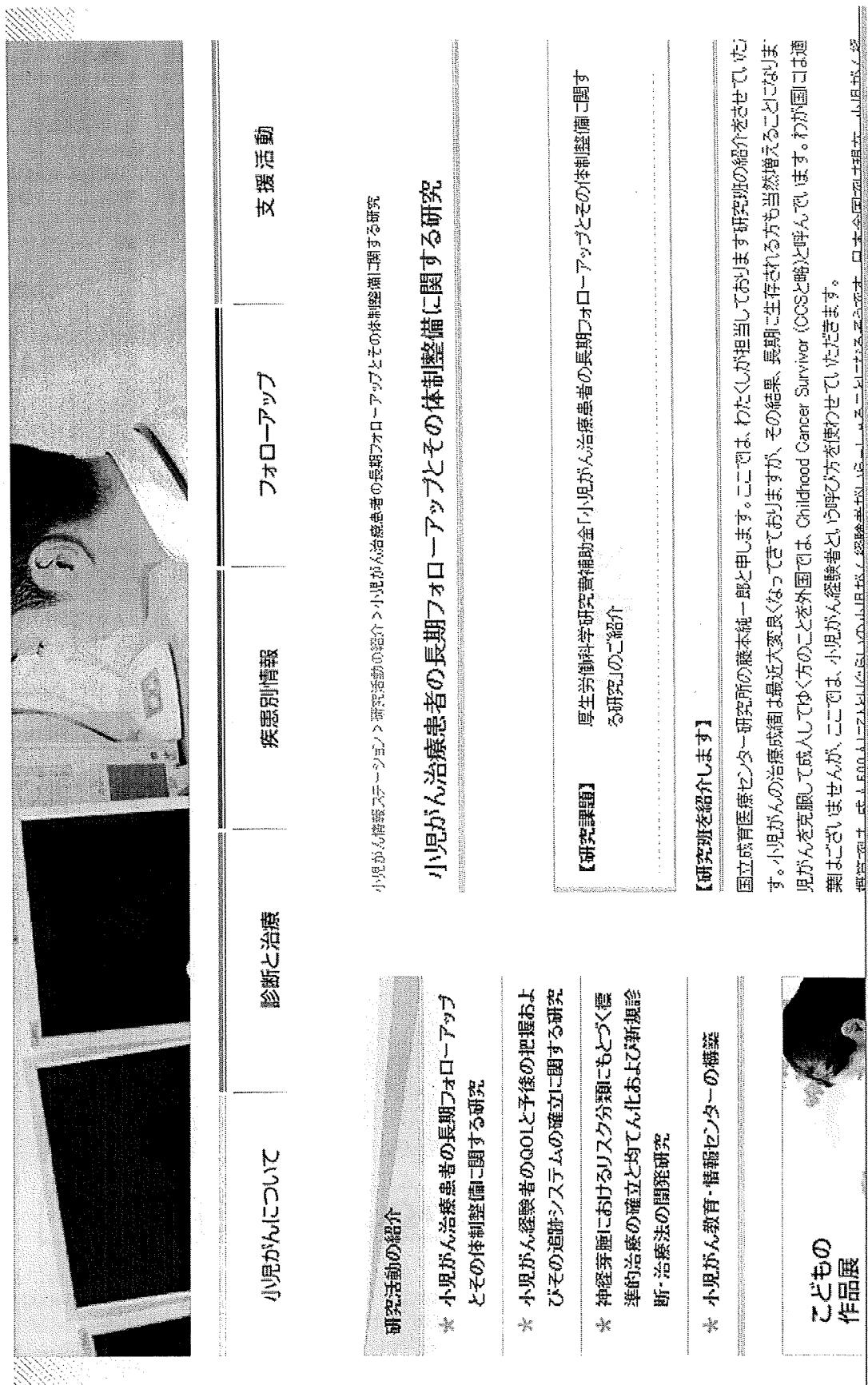
現在問題の「日本書院大学」は「小島文正（元大蔵官僚）が理想した文部省附屬の新学校」といふべき。

「怪盗ジョーカーはおまえの本名だ。おまえはもう少し年上だらうから、おまえの本名を教える。おまえの本名は『怪盗ジョーカー』だ。」

（出典）  
◆ 今井「國事訓義」卷八  
◆ 本多「續古今圖書集成」  
◆ 本多「古今圖書集成」



## 参考資料 1 1 小児がん情報センターでの研究班紹介



## II. 研究成果の刊行に関する一覧表

平成 19 年度（2007）研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
石田也寸志	長期フォローアップ（退院後の長期フォローの必要性と身体的晚期障害）	別所文雄	『新小児がんの診断と治療』	診断と治療社	東京	2007	p133-142
前田美穂	家族への対応	別所文雄	『新小児がんの診断と治療』	診断と治療社	東京	2007	123-125
東 範行	未熟児網膜症の早期手術	田野保雄	眼科診療プラクティス 17 みんなの硝子体手術	文光堂	東京	2007	199-200
横谷 進	Cushing 症候群、男 性化副腎腫瘍	佐治勉、他	講義録 小児科学	株式会社 メジカルビュー社	東京	2008	318-319

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
石田也寸志、柳澤隆昭	総会記録 ワークショップ 2 次 がん	小児がん	44(2)	120-121	2007
森口直彦、石田也寸志、加藤剛二、他	小児急性リンパ性白血病治療中の重症感染症の検討	日本小児血液学会雑誌	21(1)	19-24	2007
大園秀一、石田也寸志、栗山貴久子、他	小児がん長期フォローアップ調査報告	日本小児科学会雑誌	111(11)	1392-1397	2007
石田也寸志	ランゲルハンス細胞組織球症の晚期障害と関連腫瘍	日本小児血液学会誌	21(5/6)	289-295	2007
石田也寸志	小児造血器腫瘍患者の長期生存例での問題点	血液フロンティア	17(2)	69-78	2007
Okamoto H, Arii C, Shibata F, Toma T, Wada T, Inoue M, Tone Y, Kasahara Y, Koizumi S, Kamachi Ishida Y, et al	Clonotypic analysis of T cell reconstitution after haematopoietic stem cell transplantation (HSCT) in patients with severe combined immunodeficiency	Clinical and Experimental Immunology	148	450-460	2007

Fukuda, M. Morimoto, T. Suzuki, Y. Shinonaga, C. Ishida, Y.	Interleukin-6 attenuates hyperthermia-induced seizures in developing rats.	Brain Dev	29	644–648	2007
Nara K, <u>Kusafuka T</u> , Yoneda A, et al.	Silencing of <i>MYCN</i> by RNA interference induces growth inhibition, apoptotic activity and cell differentiation in a neuroblastoma cell line with <i>MYCN</i> amplification.	Int J Oncol	30(5)	1189–1196	2007
Sugito K, <u>Kusafuka T</u> , Hoshino M, et al.	Intraoperative radiation therapy for advanced neuroblastoma: the problem of securing the IORT field.	Pediatr Surg Int.	23(12)	1203–1207	2007
Nishina S, Noda E, <u>Azuma N</u>	Outcome of early surgery for bilateral congenital cataracts in eyes with microcornea.	Am J Ophthalmol	144	276–280	2007
横谷 進	小児脳腫瘍に伴う内分泌障害の診断と治療	小児の脳神経	32(5)	395–399	2007
横谷 進	脳腫瘍の子どもの内分泌障害への対応	小児看護	30(12)	1655–1659	2007
横谷 進	GH 分泌不全性低身長症の小児期の GH 治療から成人期の GH 治療への移行ガイドライン	ホルモンと臨床	55(4)	357–363	2007
正木英一	【特集】放射線治療に伴う晚期有害事象 放射線誘発がん	癌の臨床	53(5)	331–336	2007
藤本純一郎、池田 均	総会特集記事「小児がん登録キャンペーンシンポジウム: 小児がん登録の現状と分析、そしてこれから」	小児がん	44(2)	122–123	2007
<u>Akira Kawai</u> , et al.	Clear cell sarcoma of tendons and aponeuroses	Cancer	109(1)	109–116	2007

Teiyu Izumi, <u>Akira Kawai</u> , et al.	Dysadherin expression as a significant prognostic factor and as a determinant of histologic features in synovial sarcoma: Special reference to its inverse relationship with E-cadherin expression	Am J Surg Pathol	31(1)	85–94	2007
Hideto Obata, <u>Akira Kawai</u> , et al.	Clinical outcome of patients with Ewing sarcoma family of tumors of bone in Japan.	Cancer	109(4)	767–775	2007
Takuro Wada, <u>Akira Kawai</u> , et al.	Construct validity of the Enneking score for measuring function in patients with malignant or aggressive benign tumours of the upper limb.	J Bone Joint Surg	89-B(5)	659–663	2007
Robert Nakayama, <u>Akira Kawai</u> , et al.	Gene expression analysis of soft tissue sarcomas: Characterization and reclassification of malignant fibrous histiocytoma.	Modern Pathology	20	749–759	2007
Yukio Kawakami, <u>Akira Kawai</u> , et al.	New approach for assessing vascular distribution within bone tumors using dynamic contrast-enhanced MRI.	J Cancer Res Clin Oncol	133	697–703	2007
Makoto Endo, <u>Akira Kawai</u> , et al.	Prognostic implications of glucose transporter protein-1 (Glut-1) overexpression in bone and soft-tissue sarcomas.	Jpn J Clin Oncol	37(12)	955–960	2007
堀部敬三、他、	日本小児血液学会疾患登録委員会 疾患登録の手引き	日本小児血液学会雑誌	第21巻 第5/6号	付録	2007

平成 20 年度（2008）研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
前田美穂	思春期貧血	別所文雄、五十嵐隆監修	思春期医学臨床テキスト・日本小児科学会編	診断と治療社	東京	2008	119-122
前田美穂	鉄欠乏性貧血	佐治勉、有阪治、大澤真木子、近藤直美、竹村司編	講義録小児科学	メディカルビュー社	東京	2008	574-575
前田美穂	再生不良性貧血、二次性貧血	佐治勉、有阪治、大澤真木子、近藤直美、竹村司編	講義録小児科学	メディカルビュー社	東京	2008	576-577
前田美穂	貧血	山城雄一郎監修	ナースのための小児の病態生理事典	ヘルス出版	東京	2008	250-257
前田美穂	特発性血小板減少性紫斑病	五十嵐隆	小児科研修ノート	診断と治療社	東京	2009	268-269
東範行	眼疾病学	丸尾敏夫・栗屋忍	視能矯正学改訂第2版増補	金原出版	東京	2008	125-137
東範行	未熟児網膜症	山本 節	視能訓練士用語解説辞典	メディカル葵	東京	2009	印刷中
東範行	網膜裂孔	山本 節	視能訓練士用語解説辞典	メディカル葵	東京	2009	印刷中
堀部敬三	急性リンパ性白血病	大関武彦、近藤直実	小児科学 第3版	医学書院	東京	2008	1292-1300

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Yang L, <u>Fujimoto J.</u> Qiu D, Sakamoto N.	Childhood cancer in Japan: focusing on trend in mortality from 1970 to 2006.	Ann Oncol.	20(1)	166-174	2009. Epub 2008 Aug 20.
Yang L, <u>Fujimoto J.</u> Qiu D, Sakamoto N.	Trends in cancer mortality in Japanese adolescents and young adults aged 15-29 years, 1970-2006.	Ann Oncol.	20(4)	758-766	2009. Epub Jan 15, 2009.
Ishida Y, Ishimaru A, Tauchi H et al	Partial hypoxanthine-guanine phosphoribosyl-transferase deficiency due to a newly recognized mutation presenting with renal failure in a one-year-old boy.	Eur J Pediatr	167	957-959	2008
石田也寸志	小児がんに対する造血幹細胞移植後の晚期合併症	日本小児科学会雑誌	112(10)	1505-1518	2008

石田也寸志	小児がん経験者の長期フォローアップ	日本小児血液学会誌	22(3)	144-155	2008
石田也寸志	小児がん治療後によりよい生活—Erice 宣言の重要性	小児外科	40(6)	708-712	2008
Shinonaga C, Fukuda M, Suzuki Y, Higaki T, Ishida Y et al	Evaluation of swallowing function in Duchenne muscular dystrophy.	Dev Med Child Neurol	50	478-480	2008
安川正貴、石田也寸志、坂東史郎	Picture in Clinical Hematology (No. 26) Chediak-Higashi症候群	臨床血液	49	213	2008
Kaizu K, Maeda M, Fukunaga Y	Factors affecting final height and growth hormone provocation tests in survivors of childhood acute lymphoblastic leukemia who underwent cranial irradiation	Jpn J Pediatr Hematol	22	119-125	2008
Maeda M.	Late effects of childhood cancer: Life-threatening issues	J Nippon Medical School	75(6)	320-324	2008
Miho Maeda, Akio Tsuda, et al	Ewing Sarcoma/Primitive Neuroectodermal Tumor of the kidney in a Child	Pediatr Blood Cancer	50	180-183	2008
前田美穂	小児がん経験者のQOL	小児保健研究	67(2)	304-307	2008
Hashii Y, Kusafuka T, Ohta H, et al.	A case series of children with high-risk metastatic neuroblastoma treated with a novel treatment strategy consisting of postponed primary surgery until the end of systemic chemotherapy including high-dose chemotherapy	Pediatr Hematol Oncol	25	439-450	2008
杉藤公信、草深竹志	マスクリーニング陽性でその後の無治療期間を経て腫瘍進展が考えられた症例	小児外科	40(9)	997-1002	2008
井上幹也、杉藤公信、草深竹志、他	2年9か月間の無治療経過観察を経て腫瘍摘出術を施行したマスクリーニング発見 ganglioneuroblastoma, intermixed の1例	日小外会誌	45(1)	77-83	2009
Yokoi T, Nishina S, Azuma N.	Glial extrusion from regressed retinoblastoma after conservative treatment.	Acta Ophthalmol Scand	86	462-464	2008